

静脈物流(廃棄物の回収)効率化によるリサイクルが進む仕組みの構築

【課題】

- 廃棄物回収はピストン方式が多く採用
- 複数拠点を一度に回る方式では、どこにどれだけ廃棄物があるのか、把握できないため、非効率な回収に陥る。
- 回収コストがかかることがリサイクル阻害の要因の一つ。

【①センシング】

廃棄物保管量測定センサからデータを定期通信、堆積状況をモニタリング

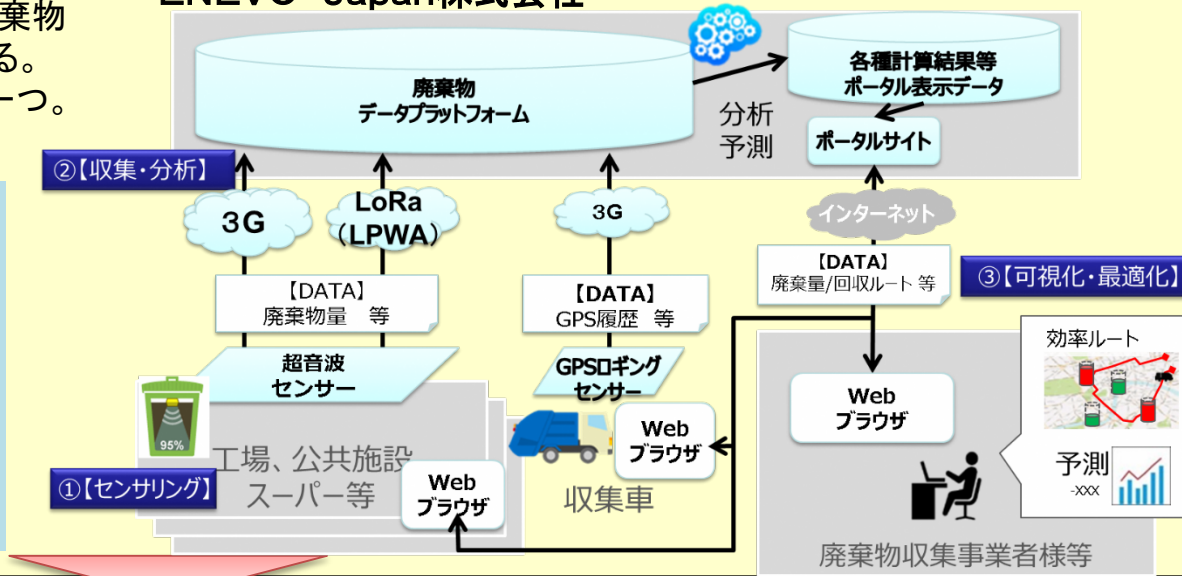
【②収集・分析】

センサからLPWA/3G等無線通信でデータ創出し、プラットフォームにて蓄積・分析

【③可視化・最適化】

分析結果を可視化し、収集事業者に対し最適ルート提示や体積状況をWEBやメール通知

技術提供: 西日本電信電話株式会社、NISSHA株式会社、ENEVO Japan株式会社



廃棄物の収集効率化を実現。収集出動回数・走行距離削減！

京都府 実証実験結果	効果
産業廃棄物回収走行距離	20%削減

舞鶴市 実証実験結果	効果
小型家電回収走行距離	42%削減
プラスチック包装類走行距離	40%削減

今後の展開

対象廃棄物の拡大

(実証の中で回収した廃プラスチック類や、小型家電のみでなく、その他リサイクルが可能なガラス・廃油・金属等の様々な廃棄物への応用)

機能拡充による中小企業も参加できる仕組みづくり

(廃棄物の排出段階から処理までを電子化することで、企業が行う廃棄物管理の手間を削減)